

全体への助言

教員養成フラッグシップ大学推進委員会

- 教員養成フラッグシップ大学に指定され2年を迎える。各大学の取組は、それぞれ異なる特徴を持っている。教員養成フラッグシップ大学へのフォローアップ実地調査では、各大学も相互に参加し、他大学の取組状況や意見を共有した。今後も、4大学間で課題や Good Practice 等の積極的な情報共有や意見交換に努め、さらに学び合い、採り入れていくことができれば、それぞれの強み、卓越性が一層明らかになり、自大学の取組の改善・充実につながる。4大学を総合した「教員養成フラッグシップ大学」の姿が鮮明になり、横展開につながることを期待する。
- 特例科目の開発にあたっては、先進性を明確にし、大学内の知見のみにとどまらず連携先機関との協働による研究の推進と成果の普及に向けた取り組みの一層の充実が求められる。また、教育委員会や大学等の連携先機関との取組を、形式的なものとはせず、具体的かつ定期的な連携体制の構築と実践に努めていただきたい。
- 学生がフラッグ特例科目で新たな学習観・授業観を身に付けていく中で行われる教育実習が、期待される力量の獲得につながる内容となるよう、附属学校園との連携のもとで教育実習のプログラム開発を進めてほしい。併せて、実習校で学生を指導する附属学校教員自身の学習観・授業観の転換が図られることを期待する。
- STEAM、AI、データサイエンスなど、情報通信技術を内容として扱う講義の検討は進んでいるように思われた。一方で、さらに、あらゆる講義や演習においても、日常的に手段としての情報通信技術の活用についても一層、積極的に取り組む必要がある。
- 先導的・革新的な教員養成プログラム、教職科目の研究・開発と併せて、その土台となる組織構築の在り方や大学教員の文化、マインド、スキルを変革していくことを実現するためのFD活動の実践など、組織的な取組を期待したい。
- 教員養成フラッグシップ大学の取組がその目的を果たすためには、各大学のステークホルダーである学校現場や教育委員会、関係の大学や企業等の共感や納得が必須。大学による取組の推進と併せて、取組に対するステークホルダーの理解促進等にも努めていただきたい。

東京学芸大学への助言

教員養成フラッグシップ大学推進委員会

(総評)

- 学生に「目指す教師像」をイメージさせる自律型カリキュラムデザインをベースにした教員養成カリキュラムはこれからの教員養成の方法として期待できる。これらの仕組みがさらに有効に機能するには、学生の主体性を生かした履修指導と特例科目につなげていく1年次からのカリキュラム全体の構造化や、自己創造のための教育体験活動の創出・開発が鍵になると考えられる。

(さらなる取組や改善等が期待される点)

- 新たな科目開発については、学内の研究をベースとした取り組みに加えて、多様な学生に対するケアの充実、学内教員の意識付け、連携機関との協働的取組も期待したい。
- カリキュラムの見直しにあわせて、教育実習の在り方も変化していく必要がある。附属学校と連携し、教育実習が自律型カリキュラムデザインの中でどう位置付くのかを整理し、連続性を持たせた実習としていただきたい。
- 成果の横展開に向け、組織がどのようにカリキュラム全体の開発を行い、変革していったのかということを発信し、連携大学の参画を得つつ、共有いただきたい。
- 先導する大学として、実績をベースとした「教職課程制度の改善への提言」にも期待する。

福井大学への助言

教員養成フラッグシップ大学推進委員会

(総評)

- 現状の学校現場の問題を改善しようと考え、丁寧な教員養成を行い、一層の発展を目指している点が評価できる。「理論と実践の往還」のサイクルを複数、多重的かつ有効に機能させるためには、科目で扱う内容、素材（教材）、学習形態・方法等の連関性が重要になると考えられる。

(さらなる取組や改善等が期待される点)

- フラッグシップ特例科目をコアに4年間にわたって学校現場や地域と連携した実践を中心とした科目が配置されているが、これらが有効に機能するためにも、そこで扱われる実践の内容と質が重要になってくる。これらについて、理念やビジョン等をもって、学術研究を含む研究開発による先導的・革新的な取り組みを進めていくことが期待される。
- フラッグシップ特例科目のみならず、教員養成プログラム全体としての先導性・革新性や重要性をより一層明確にし、学生に対して目指すものが分かり易く伝わるよう工夫することが望ましい。
- 他学部との連携に関して、教職科目のみならず、全学共通の教育科目の活用や、組織体制づくりも視野に入れるなど、様々な点での連携が必要。総合大学ならではの教員養成フラッグシップ大学のビジョンやコンセプトを、ネットワーク内で、より一層強く共有することが望ましい。
- 散発的なイベントの集積に見える取組の背後に、データの取得や検証等による制度に関わる丁寧な研究開発を想定しているのであれば、その側面でのアウトプットも求めたい。
- 教員の生涯にわたる職能成長を支えるためのネットワークの構築のコンセプトは良い。ステークホルダーとの具体的かつ戦略的な連携の動きを求めたい。

大阪教育大学への助言

教員養成フラッグシップ大学推進委員会

(総評)

- 今日的な課題であるダイバーシティやインクルーシブに関する教育について充実した教職科目が作られることに期待。他大学や教育委員会、企業など様々な関係者との連携がとられており、教員養成の進化も期待される。

(さらなる取組や改善等が期待される点)

- 教員養成フラッグシップ大学として目指す全体構想をより一層明確化させ、ダイバーシティ教育科目群が、カリキュラム全体にどう寄与・影響するのかを含め、学生にとってもわかりやすくなるよう工夫・改善されると良い。その中で、必要な領域をカバーしているのか、また系統性をもって4年間にわたり継続的に学ぶに相応しいカリキュラムや内容であるかの検討が必要。
- 今回の試行で導入した授業方法（オンデマンド+対面）の効果と課題、改善点などについて、今後の詳細な検討・提案が期待される。
- 大学教員の意識変革に関して、「大学教員の資質・能力の整理」が注目される。教員養成プログラム、学習効果の測定・評価方法の開発、大学教員のFDシステムの開発など、多くの取組を一体的に進めることによる新たなシステムづくりを期待したい。現段階ではそれぞれの取組が必ずしも有機的につながっていないようにも見えるため、教員養成フラッグシップ大学の全体構想をより一層明確にし、一体的に進めることが必要。
- 教育委員会等と教員養成フラッグシップ大学としての理念をより深く共有し、教育委員会との連携の在り方について、現場のニーズ対応型ではなく大学が先導するスタイルでOKUTEP等の取組に反映することが望ましい。

兵庫教育大学への助言

教員養成フラッグシップ大学推進委員会

(総評)

- 学長の強力なリーダーシップのもと、全体構想の一貫性や抽象度の高さが改革を支えているように見受けられる。新・スタンダードに基づき再構成された教職科目体系は明快で、自律した学修者を育てる教師の養成という先導的・革新的プログラムが十分に機能し、確立されていくことが期待される。

(さらなる取組や改善等が期待される点)

- デジタルへの対応について、AI、データサイエンス、STEAMなどに積極的に取り組まれている。今後、さらに手段としてのデジタル技術の活用が様々な教職の講義で一層積極的に活用されることが望ましい。
- 様々な研究開発が進み、コンソーシアムなどの普及のための基盤が整っている。また、他大学や教育委員会、企業等との組織的連携にこれまでの成果を感じる。教員としての専門性の高度化という視点からも、課題の共有と成果の展開が期待される。
- 令和6年度からの実装後も、FDによる教員への浸透、省察科目など折に触れた学生への浸透や、教員養成ネットワークを活用した他大学、教育委員会、企業等への浸透を図りつつ、不断の見直し・改善を行い、教員養成フラッグシップ大学としてより一層の充実を図ることが期待される。